

チャレンジショップ参加

2月10日11日12日の三日間、上野において開催されたまちかどミュージアムフェスタに参加しました。

博物館コーナーや、チャレンジショップ、中心部の博物館へのガイドツアーなど盛りだくさんの内容で、訪れた方に伊賀まちかど博物館を知ってもらえました。

上野市中町ふれあいプラザ二階において、県の博物館協会が開催した移動博物館内に伊賀まちかど博物館のコーナーを開設し、体験教室や実演、パンフレット・マップの配布、まちかど博物館が取り上げられたテレビ番組の放映などを行いました。

10日は、絵手紙教室と木村和楽器さんの三味線作りの実演と津軽三味線の演奏

11日は、組紐と竹細工の体験教室と栗木地工房さんの実演

12日は、わら細工と銅板細工の体験教室と糸と織物博物館さんの実演が、各館長さんにご協力いただき開催されました。

チャレンジショップは、一部館長さんに声掛けして、作品や商品を提供していただき、ふれあいプラザ斜め前の空き店舗をお借りして、バザーをしました。これは、来訪者にまちかど博物館を知ってもらうことと、売上金の一部を推進委員会の運営資金にすることを試みた（チャレンジ）ものです。

推進委員が店員となって、各博物館の説明等しながら博物館ゆかりのものを販売しました。訪れた方の評判の良く今後こういった機会があれば、実施していく予定ですので、ご協力お願いします。



10日に毎日放送の番組で放映された、露の五郎師匠の人力車ツアーがニュース報道されたため、11日、12日は、県外からの観光客も多く、家族やグループでガイドツアーを申し込まれ、中町周辺の博物館に訪れる方もあり、各館長さんに対応していただきました。

館長からのメッセージ その四

お菓子史博物館 橋本瑞祥堂

館長 橋本 博志

青山町には、5館の博物館があり、その内4館は、参宮街道(初瀬街道)の阿保の宿場にあり、各館がそれぞれ近接しているので、バスツアーや団体での来館者が多数訪れます。

そのため、各館の受け入れ体制や案内の人員など青山部会を開催して対応しています。推進委員の方々には、たいへんお世話になり感謝しています。

当館は、大正時代から使っている木製のレジスターや和菓子の木型などを展示しています。これらの木製品には、長い間使っているうちに木の持つ独特の色合いとあたたかみのあるやさしさがあじわえます。

さて、木には「かたち」として残るものではなく「薪」として菓子作りに関わっています。ガスの強い火力と違い、木のやさしい炎が、銅鍋を包み込みマイルドでソフトな味の製品になります。

また、燃えたあとのおき火が余熱となつて微妙な火加減があじわいのある製品を作り上げます。見るあじわいと食べるあじわい、二つのあじわいを感じてみてください。

以前にもお知らせしたかとは、思いますが、各市町村別のマップや絵葉書のための取材で「中盛汀」さんが、各博物館を訪れて取材します。

博物館のイラストを描くため、お話を聞きながら写真を撮影し、イラストに描いてゆきます。あらかじめ連絡をとって伺うようにしますので、お忙しいとは、思いますがご協力のほどお願いいたします。

絵葉書や地図については、市町村単位にするのか、あるいは複数の町村で作成するかについては、各地区推進委員さんとも検討し、早急に作成するようにしていきたいと思えます。

イラスト取材にご協力願います

編集後記

立春も過ぎ、まもなく伊賀ましかと博物館も一周年を迎えようとしています。各館長さんも様々な出会いやできごとがあつて、お忙しい一年であつたと思います。

今後、東紀州やまんなか博物館も開館します。それぞれの館と連携をとつてよりよい博物館にして行きたいと思えます。

ご意見ご要望等ありましたら、事務局までご連絡よろしく願います。

M

まちかどミュージアムフェスタ グラフ

